



The Baseball Hall of Fame and Museum

公益財団法人 野球殿堂博物館

平成30年度事業計画

館長 廣瀬 信一

昨年度も入館者数増と当館の認知度を高めるため、様々な展示・イベントを開催いたしました。特に、今回初めて夏休み前に地元文京区の校長会に出席させていただき、夏休み期間のさまざまなイベントを開催する「野球で自由研究！」のPRを行いました。また同時に各学校にチラシ、ポスターを配布し、積極的に小・中学生の来館に働きかけました。さらに、オールドファンにとっては懐かしい後楽園スタジアム等、東京都内の今は無き野球場を紹介する「プロ野球 東京のロストボールパーク」など多彩な企画展を実施いたしました。この様に、幅広い年齢層に対し、野球の振興・普及に努めた結果、入館者数は3年振りに9万台に回復し、前年比6%増の93,150人になりました。この数字は、直近8年間の中で、平成25年の11万人に次ぐ数字となりました。

今年度も昨年度以上の展示、イベントを予定しておりますので、幾つか主な展示計画を紹介させていただきます。



「昭和、平成と長嶋茂雄」展の展示風景

この企画展はもう既に3月から始まっていますが、今年で「ミスタープロ野球」長嶋 茂雄氏がプロ入り60周年を迎えるのを記念し「昭和、平成と長嶋茂雄」を5月20日(日)まで開催します。長嶋氏が日本プロ野球史に刻んだ燦然と輝く足跡とその魅力を、写真、映像やユニホーム等の実物資料を通じて紹介しています。選手時代、監督時代、そして日本代表のユニホームが一堂に展示されるのは過去に例が無く、圧巻です。また特別企画として、長嶋氏のゆかりの方々から、氏の魅力についてメッセージを頂戴して披露しております。今年殿堂入りをされた、松井

秀喜氏、原 辰徳氏をはじめ、野村 克也氏、吉田 義男氏など多くの方々のメッセージを掲示しておりますので、是非ご覧いただきたいと思えます。

次は、今夏で全国高校野球選手権大会が100回となるのを記念して、特別展を夏季期間に開催する予定です。内容は、全国各都道府県の最多出場校のユニホームの展示、また中京商3連覇を達成したときのエース、吉田 正男氏(1992年野球殿堂入り)のユニホームの展示、そして過去の名場面の映像などを交えて選手権大会の歴史を紹介いたします。

なお、当館は来年開館60周年を迎えます。現在、内容は検討中ですが、来春には60周年に相応しい特別展を開催したいと思えます。

本年度も当館のミッションである「つなげる」「ひろげる」「たたえる」をテーマに、野球の振興・普及に努めていく所存ですので、何卒引き続きご支援ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

春休みイベントのご報告

3月24日(土)

伊東 勤氏トークイベント

野球シーズン開幕を記念して、前・千葉ロッテ監督で、侍ジャパン強化本部副本部長の伊東 勤氏（2017年野球殿堂入り）をお迎えし、東京五輪を目指す侍ジャパンの展望や、今シーズンのプロ野球の順位予想、注目選手などについてお話しいただきました。



4月5日(木)

春休み親子グラブ製作教室

ミズノ株式会社のご協力により、親子で軟式少年用グラブの製作（ひも通し）をする「春休み親子グラブ製作教室」を開催しました。約2時間をかけて完成させ、「世界でひとつのグラブ」をお持ち帰りいただきました。次回は、夏休み中の開催を予定しており、募集案内は6月から7月にかけて、当館ホームページに掲載する予定です。



4月7日(土)、8日(日)

バット製作実演

ミズノ株式会社のご協力により、クラフトマンによるバット製作の実演を公開し、バット製作にまつわるいろいろな質問にもお答えいただきました。次回は、夏休み中の開催を予定しています。



2018年度の維持会員を募集中!

「公益財団法人 野球殿堂博物館」（旧・財団法人 野球体育博物館）では、当館の事業にご賛同いただいた方々に、維持会費をお願いし、博物館の運営をご支援いただく「維持会員」の制度があります。会員には次のような特典があります。

1 会員の特典

- 当博物館発行「ニュースレター」（季刊）を送付します。
- 何度でも無料で博物館に入館できる優待証を発行します。
- アメリカの野球殿堂博物館（クーパースタウンにある）にも無料で入館できます。
- 会員以外の方でも利用できる博物館招待券を差し上げます。
- イベント情報などを優先的にご案内します。

（2017年度は、野球殿堂入り通知式、荒木 大輔氏、張本 勲氏、伊東 勤氏他さまざまなトークイベントに優先的にご案内を差し上げました。）

- 博物館で販売している商品が10%引きになります。
*法人・個人会員には上記の特典のほか、ご入会時に今年3月発行の『野球殿堂 2018』を進呈します。（ジュニア会員を除く）
*ジュニア会員には上記の特典のほか、ご入会時に「野球殿堂博物館オリジナルピンバッジ」を差し上げます。



2 会員の種類と会費

年会費（4月～翌年3月迄）	
法人会員	1口 100,000円
個人会員	1口 10,000円
ジュニア会員（小・中学生）	2,000円

3 ご入会の方法

- 館内にあります「維持会員募集のご案内」の“入会申込書”に、必要事項をご記入のうえ、係りにお渡しいただくかお送りください。
「維持会員募集のご案内」は郵送もいたしますので、ご希望の方は博物館までご連絡ください。
- “入会申込書”が届きしだい“維持会費のご請求書”をお送りしますので、維持会費をお振込みください。

お問い合わせ：博物館 業務管理部（TEL 03-3811-3600）
皆様のご協力、よろしくお願い申し上げます。

殿堂入りの人々を語る(59)

父のこと

松永 都 (1988年野球殿堂入り 西本 幸雄氏 次女)



西本 幸雄氏

私の父は、旧制和歌山中学校（現・桐蔭高校）から立教大学へ進学し、戦争を経て別府・星野組に入りました。1949年に星野組は都市対抗野球大会に出場し、優勝しました。この時父は、監督兼一塁手として出場しています。翌年の50年、毎日オリオンズに入団します。プロ野球選手としてはそれほど長くプレーしませんでした。その後、毎日オリオンズでコーチ、監督を務めました。阪急ブレーブスでもコーチ、監督を、近鉄バファローズでは監督を務めました。ユニホームを脱いでからも野球解説者として、一生ずっと野球の中で生きてきました。

ですが、父は家庭ではいつも居間に居り皆で過ごしており、あまり野球の話もせず、家族も聞きもせずに過ごしてきました。母は試合がいつ終わったかを知るために、テレビの野球中継をつけていて、試合が終わったとわかると食事の用意をしていました。野球中継は見ていましたが、父と試合の話はあえてしなかったと思います。母は、試合は勝ったり負けたりと、いつもいい時ばかりではないと思っていたようで、私たち姉妹もそのような母の姿を見て、父と野球の話はしなかったのだと思います。

父は家でも寡黙な人でした。ただ、来客とはよく野球について熱く語る父の姿を思い出します。

父のことはよく「悲運の名将」と言われますが、父はまったく悲運とは思っていません。「そのような「代名詞」があるお蔭で、長く野球に携わり続けてこられた。幸運だよ。」と笑って言っていました。

父は裏表なく、^{えこひいき}依怙^{えこひいき}鼻^{えこひいき}息^{えこひいき}もせず、誰とでも真摯に向き合ってきた為か、永く慕ってお付き合いしていただいた方も多かったのかと思います。

父は亡くなるまでスポーツニッポンで働いていました。ある日会社に「危篤だ！」と連絡しろと言われ、担当の方にお電話をしましたが、あいにく東京で巨人-阪神戦があったため、皆さん東京に行っていっちゃいました。それでもデスクの方をはじめ、皆さん次々と自宅にお越しいただきました。今にして思えば父は皆さんにお会いして、挨拶をしたかったのだらうと思います。亡くなる1週間ほど前には、関西テレビの方が自宅にいらしてカメラを回していました。父はバットスイングの真似をしていました。父の葬儀の時には、この映像を流していただき、父も大変喜んでいたと思います。

最後まで、身振り手振りを交えて楽しそうに野球の話をする父を見て、この人は本当に野球が好きなんだなあ〜！、幸せな人だなあ〜！と羨ましくも誇りに思いました。

今、私は父の家を引継いでいます。その家の応接間には野球殿堂入りのレリーフと、太平洋野球連盟からいただいた監督1000勝記念の額が飾られています。他のトロフィーなどは表に出していませんでしたが、この2つだけは飾られていました。たぶん父は、この2つに自分の野球の集大成を感じて、他のものと比べより嬉しかったのだらう、とそのままにしています。

(松永様にお話をお聞きし、編集部で加筆いたしました。)

もの
知ってほしいこんな資料 (88)

武智 文雄 (近鉄)、高橋 善正 (東映) 完全試合ウイニングボール展示



武智投手、高橋投手ウイニングボール

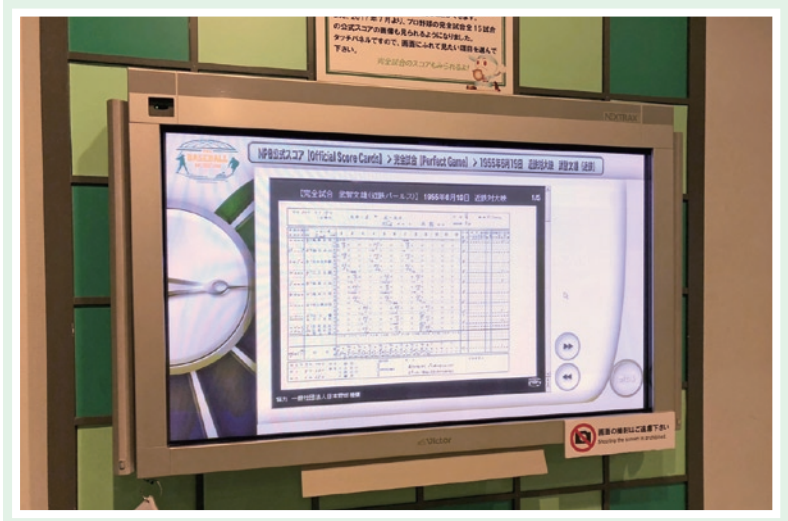
現地時間4月8日、ロサンゼルス・エンゼルスの大谷翔平投手が、メジャー2戦目の登板であわや完全試合の快投を見せました。MLBでは過去23回、NPBでは過去15回と、非常に達成が難しい記録です。

野球殿堂博物館では、今年になってから、過去15回うちの2つの完全試合のウイニングボールを収集しました。

ひとつ目は、武智 文雄投手 (近鉄パルス) が1955年6月19日の大映戦で達成した完全試合 (史上2人目、パ・リーグ初) のウイニングボールです。この1月にご遺族よりご寄贈いただきました。この試合は大阪球場で行われたダブルヘッダーの第2試合で、試合開始は19:22で終了は20:53。打者27人に対し6奪三振、89球での偉業達成でした。前年26勝をあげ球団初の最多勝を獲得した近鉄のエースで、この春の結婚を機に田中から武智に改姓。このシーズンはここまで2勝6敗と苦しんでいましたが、翌日の報知新聞では「6回頃から完全試合を意識しました。調子はすばらしくよく、思うコースへシュートと速球がきまり、各打者の欠点をつけたように思う」と語っています。

また、ふたつ目は、高橋 善正投手 (東映フライヤーズ) が1971年8月21日の西鉄戦で達成した完全試合 (史上12人目) のウイニングボールです。この3月にご本人様よりご寄贈いただきました。この試合は後楽園球場で開催、こちらもダブルヘッダー第2試合で、試合開始は19:15で終了は21:20。投球数86、三振は3回の三輪 悟投手からのひとつだけで、内野フライ7、外野フライ4、ゴロ15と、打たせてとる投球での偉業達成でした。この日は投球の軸であるシュートの調子が悪く、割合を減らしたことで、「裏をかかれて打てなかったのでは」と報知新聞で語っています。

当館では、この2つの完全試合ウイニングボールを、プロ野球開幕に合わせ3月30日(金)より公開しています。また、同コーナーのディスプレイでは、両試合を含む過去15度の完全試合の公式スコアを、日本野球機構のご協力により公開しています。ぜひご覧ください。



完全試合の公式スコア

事業部 主任学芸員 関口 貴広



こんにちは図書室です



『第1回全国野球大会記録』

今年の夏に行われる「全国高等学校野球選手権大会」は100回の記念大会を迎えます。大正4（1915）年に始まった大会（当時は、全国中等学校優勝野球大会）で、昨年の99回大会は地方予選が3839校、本大会は49校が出場する大会になりました。

今回は、多分当館にしか無いと思われる『第1回全国野球大会記録』（大阪朝日新聞社 編集・発行 大正4（1915）年10月20日発行 全68ページタテ19cm）で、第1回大会を振り返ってみたいと思います。

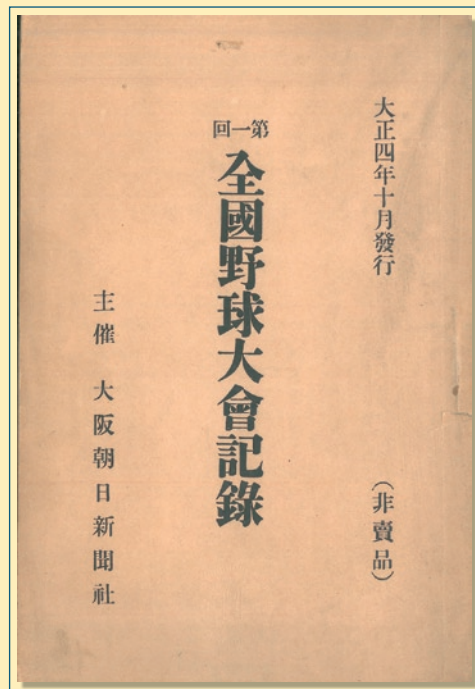
この本の内容は、第1回大会の出場選手、試合風景などの写真、試合の経過、地方予選の結果などです。

第1回大会の代表チームはどのようにして決めたのでしょうか。「全国10地方代表校」の項目を見ると、「我社は全国各地方に於ける府県連合野球大会の本年度の優勝校を其の地方各校の代表者と認め…中略…地方大会の存在せざりし地方に対しては特に本社各地方通信部主催又は後援の野球大会を行われしめ…略」と、それぞれの府県の野球大会または、朝日新聞社が主催・後援した野球大会を行い、東北、東京、東海、京津、関西、兵庫、山陽、山陰、四国、九州の10チームが決まりました。代表を決める試合の多くは、8月に入ってから始まり、最後に代表が決まった山陰大会は、本大会直前の8月15日が決勝戦という日程でした。代表チームが大阪の豊中に集まり、大会前日の8月17日の夜7時から大阪ホテルで、選手110名、監督10名と大会委員の合計約200名が集まり、茶話会が開かれました。この茶話会は、遠路はるばるやってきた選手の労をねぎらうこと、選手同士の親交を深めることが目的で、席順はそれぞれの学校の選手が、懇談できるように決めたそうです。

この本の中に所々あるコメントのような記事には「輝く参加記念賞」、「同じ3つの美談」、「大会唯一の本塁打」、「秋田土産「サァ来い」」、「両校長の口と心」、「大会委員の紅白試合」、「優勝選手慰労宴」など、エピソードのようなことが取り上げられています。「大会唯一の本塁打」では、大会第1日の第1試合、鳥取中対広島中戦で、広島の中村選手が「中堅の頭上遙かに打った球は転々して殆ど柵堀の際まで行った。そして中村君は悠々と還って、大方ベンチに来る位まで余裕があった。」と大会の第1号ホームランは、余裕をもってホームインしたランニングホームランだったとわかります。また、「大会委員の紅白試合」は、紅組は昔野球をやっていた人たちのチーム、白組は高等学校・専門学校の現役選手というチームの試合です。結果は1対0で紅組が勝ち、賞品はボールの代わりに西瓜、バットの代わりにすりこ木で、早速西瓜を割って敵も味方もなく舌鼓を打ったという、何とものんびりした話が紹介されています。

図書室にはこの本の他にも、多くの選手権大会に関する資料があります。主なものは『全国高等学校野球選手権大会』（朝日新聞社 1958年11月発行）、また、朝日新聞社が発行している全国高等学校野球選手権大会の年史は、50年史（1968年12月発行）、70年史（1989年6月発行）、第71回～80回（1999年3月発行）、第81回～90回（2009年4月発行）があります。戦前の資料では『全国中等学校野球大会史』（朝日新聞社 1929年発行）、『全国中等学校野球大会の12年史と其選手』（安藤 北海 著 女子運動界社 1926年発行）、『全国中等学校野球大会史』（春日 俊吉 著 貝葉書院・向陽社 1926年発行）などを所蔵しています。第1回から100回の歴史を辿ってみるのはいかがでしょうか。

司書 小川 晶子



野球殿堂博物館 トピックス (2018年2月~4月)

表彰

3月15日(木)
「ベストショット オブ ザ イヤー2017」
東京スポーツ・中西カメラマンを表彰!

企画展「野球報道写真展 2017」会期中(2017年12月16日~2018年2月25日)の来館者によるファン投票「ベストショット オブ ザ イヤー2017」で、最多の436票を集めた、広島東洋カープの菊池 涼介内野手による「華麗なプレー」を撮影した、東京スポーツ 中西 弘之カメラマン(写真左)を表彰しました。



「2018 球団デー」開催のお知らせ

各球団ファンクラブ会員様へのサービスとして、東京ドームでの試合開催日を中心に各2~3日を「球団デー」とし、各球団有料会員の小・中学生は入館無料(大人は通常割引)とします。また、特別展示などの他、会員証をご提示いただいたお客様(先着500名)には、各球団のオールドユニホームをデザインしたオリジナルポストカードをプレゼントします。

4月6日(金)、7日(土)、8日(日) 日本ハム

4月6日、7日、8日の東京ドーム「北海道日本ハム対千葉ロッテ」の試合にあわせ、「北海道日本ハムファイターズ デー」を開催しました。



4月17日(火)、18日(水) 西武

4月17日の東京ドーム「埼玉西武対北海道日本ハム」の試合にあわせ、「埼玉西武ライオンズ デー」を開催しました。

球団デーの予定

パ・リーグ	
ソフトバンク	7/9(月)~11(水)
楽天	5/24(木)、25(金)
オリックス	5/24(木)、25(金)
ロッテ	8/20(月)、21(火)

* 同日開催

セ・リーグ	
広島	8/28(火)~30(木)
阪神	8/7(火)~9(木)
DeNA	5/18(金)~20(日)
巨人	6/8(金)~10(日)
中日	7/27(金)~29(日)
ヤクルト	6/22(金)~24(日)

博物館からのお知らせ

▶理事会

- ・ 3月6日 平成29年度第7回理事会
- 議 題
 1. 平成30年度事業計画案及び収支予算案について
 2. 諸規程の制定及び一部改正について
 3. 特定資産取崩について
 4. 評議員候補者について
 5. 評議員選定委員会委員交代について
 6. 会議日程等について

- 報告事項
 1. 理事長及び業務執行理事の職務の執行状況について
 2. 職員退職並びに採用について
 3. 表彰委員会規程改正小委員会設置について

以上

▶職員の異動

4月1日付で、安田 知生業務管理部長が
出向解除となり(株)東京ドーム 安全推進室へ移りました。

《新任》業務管理部長 高田 治 (たかた おさむ)



1965年3月14日生まれ 大阪府出身
1987年東海大学 政治経済学部 卒業
同年(株)後楽園スタジアム(現:株)東京ドーム
に入社。ショップイン部、人事部、東京ドーム
ホテル、東京ドームスポーツ、営業推進部
などを経て、2018年4月1日付で野球殿堂博
物館に出向。

《新任》事業部 学芸員 井上 裕太 (いのうえ ゆうた)



1988年7月30日生まれ 埼玉県出身
2011年國學院大學 文学部 史学科 卒業
2013年國學院大學大学院 文学研究科 史学専
攻 博士前期課程 修了
2016年國學院大學大学院 文学研究科 史学専
攻 博士後期課程 単位取得退学
秩父宮記念スポーツ博物館を経て、2018年4
月1日より当館の事業部に勤務

場 所 東京ドーム21ゲート右
開館時間 3月1日～9月30日 AM10時～PM6時
10月1日～2月末日 AM10時～PM5時
(入館は閉館の30分前まで)
入館料 大人 600円(500円) } ()は
高・大学生 400円 } 20名以上の団体
小・中学生 200円(150円)
65歳以上 400円
休館日 月曜日(祝日、東京ドームでの野球開催日、春・夏休み中は開館)
年末・年始(12月29日～1月1日)

《5月・6月・7月の休館日》

- 5月 7日・14日・21日・28日
- 6月 4日・18日・25日
- 7月 2日
- ※7月3日(火)～9月2日(日)まで休館日はありません。

●編集後記 新年度が始まり、約1か月が経ちました。今年度も、さまざま展示、イベントを行う予定ですので、皆さまぜひ博物館にお越しください。お待ちしております。

▶販売中

●「野球殿堂 2018」 価格 2,700円(税込)
今年殿堂入りされた松井 秀喜氏、金本 知憲氏、原 辰徳氏、瀧 正男氏 の4名を含めた野球殿堂入り顕彰者201名をご紹介します。野球殿堂博物館のオフィシャルガイドブックでございます。



●「野球守」 価格 800円(税込)
以前よりご好評いただき
おりました野球守に、新しい
デザインの紺色が加わりました。
現在、「白」と「紺」の
2色を販売しております！



白 紺
昨年の野球守は、当館返納箱までお持ちください。

●「グリーンリストバンド 2018」 価格 540円(税込)
今年もグリーンリストバンドの
発売を開始いたしました。
売上金の一部は植樹等の緑化・
環境保全活動に使用します。



●「イースタン・リーグ観戦ガイド 2018」
定価 500円(税込)
イースタン・リーグの観戦情報誌です。
数量限定での販売になりますので、お
早めにお求めください。



●「2018オールスター チャリティーグッズ」
熊本県の大人気キャラクター「くまモン」とコラボした、
2018年プロ野球オールスター戦のチャリティーグッズです。



コラボグッズの売上金の一部は、マイナビオールスター
ゲーム2018の終了後に、熊本地震で被災された方々へ寄付
いたします。

※上記の商品の郵送をご希望の方は、当館ホームページ
をご参照ください。
また、ご不明な点は当館までお問い合わせください。

野球殿堂博物館 Newsletter 第28巻 第1号
2018年4月25日発行(年4回発行)
編集・発行 公益財団法人 野球殿堂博物館
(旧・財団法人 野球体育博物館)
〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61
Tel 03(3811)3600 Fax 03(3811)5369
<http://www.baseball-museum.or.jp/>



The Baseball Hall of Fame and Museum

公益財団法人 野球殿堂博物館

リレー随筆 (70)

ミスターの機密解除

競技者表彰委員会幹事 山本 理 (報知新聞社)

ずいぶん前、長嶋さんに巨人入団を決断するまでの経緯を尋ねたことがある。立大4年までは、親友の杉浦忠さんとともに南海(現ソフトバンク)へ行くつもりだったのか、本人の答えを聞いたかった。

きちんとしたインタビューの席ではなく、どこかの会場へ歩いて向かう道中だった。書く前提がない場なら、本音が聞けるかもという期待もあった。

長嶋さんは首を振った。

「大学入ってすぐに父親を亡くしてね。母親から『遠くへは行かないでほしい』って頼まれていたからね。(最初から) 巨人へ入るつもりだったよ」

入団当時の新聞、雑誌などに掲載されていた「進路決定まで」に関する長嶋さんの公式談話に近かった。

そうでしたか、と私は返した。

ダイエー(現ソフトバンク)の担当記者だった頃、球団の幹部だった杉浦 忠さんから原稿の代筆を頼まれた。特別、かわいがられていたわけではない。その日、球団事務所のプレスルームに残っていたのが私一人しかいなかったからに過ぎない。平成に入って間もない頃の話である。

立大のOBらに配る会報用だと伺った。「今からする話をまとめてもらえないか」。杉浦さんは問わず語りて立大4年の秋、野球部の合宿所であったエピソードを明かし始めた。

…ある日の深夜、(杉浦さんが) 部屋で寝ていると、長嶋さんから階下の食堂へ誘われた。降りていくと、長嶋さんは灯りもつけずそのままイスに座っていた。「俺は巨人へ行こうと思うんだ」と切り出した。当初は2人で南海へ入団するつもりだった。「いいじゃないか。俺はお前に誘われたから南海へ行くわけじゃない。自分の意思で行くんだ。お前は巨人で頑張れ」と答えた。長嶋さんはホッとしたのか、それまでの不振が嘘のようにヒットを打ちまくり、秋のリーグ戦で首位打者。当時の大学通算本塁打記録を塗り替える8号も放った…。

一言ひと言に特段の感情を込めず訥々と振り返る杉浦さんの話しぶりが、リアリティを引き立てていた。後に野球殿堂入りを果たす二人のプロ入り前夜に興奮させられた。

巨人担当として直接、取材するようになって、長嶋さんはその圧倒的な人気と影響力ゆえ、想像以上に本音を語れない立場だと知った。たとえば関係者がメディアに明かした「証言」が違っていても、しゃべった相手に対する気遣いから訂正しなかったこともある。あるいは、多くのファンが望む「長嶋茂雄」像を壊さないために控えたコメントもあるという。周囲を傷つけないための配慮がいつも長嶋さんの頭の中にある。

ただ、時間の経過とともに長嶋さんの胸の内にある「機密指定」が解除されるケースもある。

数年前、あまりに有名な「天覧試合のサヨナラホームラン」を再取材する機会に恵まれた。野球殿堂博物館の図書室で集めた複数の資料には、最後の打席へ向かう長嶋さんは「とにかく塁に出ることを意識していた」とある。インタビューで改めて打席に臨む心境を尋ねると、長嶋さんはほんの一拍間を置いて「狙ってました」と笑みを浮かべた。ホームランを、ですかと念を押すと「ええ」と答えた。歴史的一打から55年目に明かされた本音だった。

同じ頃、ある月刊誌から頼まれて長嶋さんにインタビューした。そこで再び大学4年の秋を振り返ってもらうことにした。南海入団も考えたことがあったのかと私は尋ねた。

長嶋さんはかすかに微笑んだ、ように見えた。

「そんなことも、あったかな」

長嶋さんがこれまでの野球人生を回想した「野球は人生そのもの」(日本経済新聞社刊)の中でも、合宿所の真っ暗な食堂で悩んだ末の決意を杉浦さんへ打ち明けた場面が描かれている。本音を語る状況を迎えるまで、半世紀の時間が必要だったということだろう。